

絵図にみる城下町松江 ―松江城下町絵図の特徴―

平成 24 年 7 月 14 日

松江市史講座

渡辺 理絵（山形大学）

1. 絵図と城下町絵図

○絵図とは・・・

- ・江戸時代につくられた地図のこと（古地図とも称する）
- ・江戸時代、幕府、藩庁、町人地、村などで、多種多様な絵図が作られた（作成が指示された）。
- ・江戸時代は、絵図作成の黄金期

○城下町絵図とは・・・城下町を描いた絵図のこと（研究者によって、町絵図を含めるものもある）

ただし、城下町全域が詳細に描かれた例は少なく、武家地、町人地、城内について精粗がある。

- ・数の違いはあるが、各藩で城下町絵図が作成された。

2. 城下町絵図の分類

矢守一彦（1974）『都市図の歴史―日本編―』講談社 より

公用図

○幕府（幕府役人）へ献上するための絵図

正保期に作成された城絵図

巡見使に献上（が閲覧）するための絵図

城郭修築願の付図として

○藩庁内で使用するための絵図

城下建設・築城に際しての記録・計画図

作戦用図

屋敷割図

都市改造計画用図

町政用図

※矢守氏「城下建設・築城に際しての記録・計画図と作戦用図はまれである」

私用図

○私的に写され、利用された絵図

武士の間で写されたもの・町人など民間の間で写されたもの

○版元で刊行された絵図

江戸・京都・大坂などで刊行された版（板）行図

3. 松江城下町絵図の特徴

○松江城下町絵図の先駆的な調査

島田成矩^{しげのり}氏の調査 36 点の城下町絵図について調査

⇒近世史の専門家として 30 年間にわたり松江工業高等専門学校で教鞭を執る傍ら、松江に関わる多くの學術書を著わす。『堀尾吉晴：松江城築城国主・中老』『松江の歴史年表』『不味流茶道と史料』『松江城物語』など

○悉皆調査

船杉力修^{りきのよ}氏（島根大）の調査の継続

○最新の調査結果

大矢幸雄氏（前松江市立中央図書館館長） 105 点の城下町絵図

（※コピーや原図が不明なども含める）

4. 公用図と私用図

藩主名	公用図	私用図
堀尾氏	「堀尾期松江城下町絵図」(島大)	
京極氏	「寛永年間松江城家敷町之図」 (丸亀)	
松平氏	正保城絵図(内閣文庫・乙部家) 三谷家絵図（寛文～宝永） 延享年間の城下町絵図 ↓ ？	「松江城下繪圖」(天保期) 「松江城下図」(文久元年)

○幕末～明治初期の松江藩庁文書をめぐる動き

「1867 年山陰道鎮撫総督西園寺公望の一行が松江に到着」

「鎮撫使との交渉の頃から入城までの日々、松江城は連日、白煙と炎が上り続けたとされる」

「藩の中樞である仕置所・添役所・御用所などの文書、記録類がまったく存在しない」

国文学研究資料館史料館，島根県立図書館編（2001）『島根県立図書館所蔵 松江藩郡奉行所文書調査目録 島根県立図書館。より

○公用図の特徴 ―個別絵図を見る―

その 1：「堀尾期松江城下町絵図」島根大学図書館蔵・元和 6～寛永 10 年（1617～33）・117×141 cm

その 2：「寛永年間松江城家敷町之図」丸亀市立資料館蔵 寛永 11～14 年 152.0×130.0 cm

※強い系統関係 堀尾図―京極図（丸亀）―筆写される絵図―

その 3：「松江城及城下古図」三谷健司氏蔵 元禄 2～宝永 7 年（1689～1710）150×102 cm

※松江城下町絵図の中で唯一、現用史料とみられる絵図

その 4：進出絵図・・・ 「雲州松江之圖」宮城県図書館蔵 湧谷亘理家(伊達氏一門) 所蔵図

○私用図の特徴 ―個別絵図を見る―

その 1：「松江城下繪圖」松江城天守蔵（現在 松江歴史館） 天保年間

その 2：「松江城下図」絲原記念館蔵 文久元年 86×99 cm

※現存する天保期の絵図から、系統関係が見いだせる。―筆写される絵図―

※江戸・京都の都市図の影響が示唆される。

5. 絵図からみる松江の変化

その 1：中原町の町屋の小規模な延伸

その 2：奥谷・万寿寺前の通りの直線化

その 3：雑賀町の小規模な拡充

その 4：中原町湖岸の砂州の形成？

※ただし、絵図から導き出す景観には注意も必要

おわりに

昨今、松江城下町絵図の悉皆調査により、群として松江城下町絵図を捉えることが可能になりつつある。その特徴の 1 つは近世初期の絵図の存在である。とりわけ、京極期の（と思われる）絵図が複数存在する事実は、その統治期間を考慮すれば、注目に値する。さらに、近世初期の個別の絵図をみても、計画図としての側面やその精度などは特筆される。今後は、こうした成果をふまえつつ、個別絵図のより精緻な分析が課題となろう。